

JCHO うつのみや病院  
第6回地域医療連絡協議会議事録

- (日 時) 平成 30 年 6 月 14 日(木) 16:00～17:00  
(場 所) JCHO うつのみや病院 2階大会議室  
(出席者) 18 名  
(議 題) (1)病院現況報告  
(2)当院への意見・要望について  
(3)その他

【概要】

(司会：栗原副施設長により進行)

1. 草野病院長あいさつ

国の施策も見据え、休床していた 46 床を返還し 199 床とした。実際の稼働病床は変わらない。地域の皆様に役立つ病院として運営をしていきたい。どうぞ宜しくお願い致します。

2. 長田委員長あいさつ

新専門医制度が始まる。来年から自治医科大学より JCHO へ地域医療の実践を場として何名かの医師が学びに来る予定である。今後とも宜しくお願い致します。

3. 異動者の紹介

宇都宮市南消防署 救急第 2 グループ係長 高橋正道様  
五代若松原地区連合自治会長 小池恵一郎様  
以上お二人の紹介及び挨拶

(これ以降、設置規程第 7 条より長田委員長が議事進行)

4. 議題

(1) 平成 29 年度 病院現況報告

- 事務局石引：(別紙スライド資料について説明)
  - ・別紙資料参照。

(2) 当院への意見・要望について

- 渡邊委員：日帰り人間ドックの地域の方の利用はどのくらいか？ 地域の方限定の割引で問題は出ていないか？
- 草野委員：割引制度は始めたばかり。状況を見て対処していきたい。

- 横堀委員 : 看護師の不足は何名くらいか?
- 佐藤委員 : 満床で活用するにはあと 10 名ほど。子育てをしながら仕事が続けられるようワークライフバランスも考えたい。
- 山口委員 : 29 年度は全体で約 1200 万の赤字であるが、老健は 6300 万の黒字となっている。なんとかできたのでは?
- 草野委員 : 医療構造上、老健・健康管理センターに比べ急性期は利益が出にくい。
- 藤川委員 : 当院は二次救急のため、24 時間患者が来なくても常に開けてなくてはならない。
- 大和田委員 : JCHO のような病院はここで使ったものをこっちという訳にはいかない。
- 長田委員長 : 救急車の受入で入院となった割合は?
- 草野委員 : だいたい 3 割ぐらい。救急車の受入率は約 7 割。断っている 3 割の内容は、脳外科など専門外の患者、救急車が重なった場合、3 次救急の患者。手を抜いて他に回しているわけではない。新入院患者も増えている。
- 長田委員長 : 病院が建て替えになるとどの程度資金が必要になるのか?
- 草野委員 : JCHO 病院の建て替え時は自己資金で 2 割なければ認められない。医療機器の新規購入等も考えると、30 億円くらい必要となる。
- 小池委員 : 患者に寄り添った医療の実践には、経営のことばかり考えても難しいのかもしれない。
- 山崎委員(代) : 収支の件については引き続き努力をしていくとのお話を別な場で伺っており、今後を期待している。JCHO さんには地域医療の面から他の病院で行っていないことも実施していただき、助かっている。
- 安田委員(代) : 高齢福祉課という立場から、今後も高齢者医療の推進に市と病院が連携してやっていければと思っている。
- 澤畑委員 : 1 時間程度の会議では事前に論点を絞った方が良いのでは。
- 長田委員長 : 次回からは議論する題目をある程度用意する形で行きましょう。

### (3) その他

- 事務局石引 : この会議について出席名簿、議事録をホームページに掲載し、情報を広く公開する予定にしている。皆様に了承をお願いしたい。
- 事務局栗原 : 次回は来年の 2 月を予定。

以上

2018.6.18 総務企画課作成